

研究結果報告書

研究結果

本研究は旧満州における日本のハンセン病対策の真相を深く究明するにあたって、当時の被害実態調査を行い、研究分析を進めた。調査は主に以下の4点を着眼点とした。●旧満州当時のハンセン病患者への差別・偏見の実態、それと日本のハンセン病政策の関連●「同康院」には隔離監禁、強制断種・強制堕胎などの人権侵害の行為の有無。●「同康院」における日本人、朝鮮人、満州族人の間で人種差別の有無。●閉鎖後の職員と患者の行方、社会復帰状況

中国遼寧省鉄嶺市の山里に設置された日本のハンセン病施設「同康院」には、中国人、日本人、朝鮮人の患者が収容されていた。本研究はまず、同施設の址、そして当時隔離収容された患者の所在、また同施設に勤めていた職員の所在などを確認した。当時「同康院」に勤めていた用務員の二人が見つかり、インタビュー調査を行った。さらに、当時の記録資料の一部分、【「同康院」の工事竣工目録、同院の配置図、日本人従業員と中国人従業員リスト】を収集でき、分析を行った。インタビュー調査によると、「同康院」を設立するため、建設地の確保にあたり、村民の家が焼かれたことがあった。また、「同康院」の患者は強制隔離され、院内のみで生活し、中に農業に従事する人もいた。「同康院」の従業員だけではなく、「同康院」の患者の生存も調査したが、現段階ではまだ確認できていないので、患者の院内生活の具体的な状況がまだ把握できていない。「同康院」が発行した機関誌「慈光」によると、患者には中国人、朝鮮人、日本人がいたが、現段階で確認できたのは中国人と朝鮮人で、日本の患者及び、他の国の患者の有無を確認する必要がある。

本研究は旧満州のハンセン病患者や家族が受けた差別・偏見の実態を考察することで歴史事実を明らかにしながら、患者と家族がその被害を訴える状況を生み出すことに努めた。ハンセン病政策の究明はもっぱら歴史の確認作業として捉えられがちであるが、本研究はそれを今日の感染症対策と感染者の権利保障と結び付けて考察したところに独創性がある。

また、旧満州の日本ハンセン病対策の調査によって、ハンセン病対策が感染者を苦しみから救うためでなく、人々のハンセン病に対する偏見を固定化して差別を助長してきた対策であることを解明した。今日の感染症対策はハンセン病対策に見られたこのような差別・偏見の厚い壁を崩さないかぎり、感染者の社会権問題が今後ますます深刻になるという認識が今回の調査で深まった。

当時の記録資料が少いにもかかわらず分散されていたため、これからも、聞き取り調査と資料調査・分析を行い、旧満州における日本のハンセン病政策の実態をさらに明らかにするために研究を続けていく。本研究はハンセン病対策の実質を究明することによって、今後の感染症対策のあり方、感染者の社会権保障に関する議論を前進させるに違いない。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

日本のハンセン病対策に関する歴史的研究—旧満州にあるハンセン病施設「同康院」をめぐって」・劉 晴暄・上海都市社会工作研究中心公共衛生研究会・2011.9・上海

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

「感染症対策と社会権—中国にある日本のハンセン病施設の歴史研究及び現代感染症対策への啓発」・劉 晴暄・『医療・福祉研究』第21号投稿予定・2012.3

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)